

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：83101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00969

研究課題名（和文）近世産業絵巻の基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research on Early Modern Industrial Picture Scrolls

研究代表者

渡部 浩二（Watanabe, Kouji）

新潟県立歴史博物館・その他部局等・研究員

研究者番号：20373475

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代を中心に制作された、各種産業の一連の生産工程などを画題にした絵巻（近世産業絵巻）を集積し、年代や制作背景などを分析した。それらは江戸時代の産業の発達を反映し、新たな画題として制作・受容された側面をもつ。一方で、必ずしも産業の盛期を描いたものではなく、それらの制作の背景には、地域産業や博物学などに対する関心の高まりとともに、絵巻の制作を担う層やそれを受容する層の拡大といった文化の大衆化、地方文化の発展とも密接に関わることを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の絵巻研究は、平安時代から室町時代までに制作されたやまと絵作品を中心に行われてきた。よって、江戸時代以降にも継続して展開された多様な絵巻文化のあり方については体系的に整理・研究されていない。本研究では、江戸時代の安定した社会の中で発展した各種産業の一連の生産工程などを画題にした絵巻（近世産業絵巻）の集積と分析を通じて、近世社会における絵巻文化の一端を日本絵巻史上に位置づけることを試みた点に意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study collected early modern industrial picture scrolls produced mainly during the Edo period, which depict various production processes in multiple industries, and analysed their date and production background. Those scrolls reflect industry development in the Edo period and were produced and accepted as new themes. On the other hand, they did not necessarily depict the industries' peak. The background to their production was closely related to the popularisation of culture and the development of local culture, such as the growing interest in local industry and natural history, as well as the expansion of the groups responsible for producing picture scrolls and the people who accepted them.

研究分野：日本近世史

キーワード：産業絵巻 近世産業 佐渡金銀山 鉱山絵巻 農耕絵巻 製茶絵巻 捕鯨絵巻 製紙絵巻

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の絵巻は、奈良時代以降、中国から輸入された挿絵入り経巻や画卷の影響下に発達し、平安時代のやまと絵の成立と文学の流行に伴って、しだいに形式を整えるに至った。そして、平安時代・鎌倉時代の盛期を経て、室町時代以降江戸時代から現代までその伝統を維持している。しかし、美術史上、狭義では、平安時代から室町時代までに制作されたやまと絵作品に限定して絵巻を定義づけている。このため、『絵巻物総覧』(角川書店、1995年)など絵巻関係研究書籍を見ても江戸時代以降の絵巻についてはほとんど取り上げられず、その多様な展開のあり方は整理・研究されていない。

江戸時代以前の絵巻の分野は、「宗教絵巻」(「説教」,「縁起・靈験」,「高僧伝」)と「文学絵巻」(「物語・説話・合戦」,「御伽草子」,「歌仙・歌合」)といったように大別される。一方、江戸時代以降になると、戦乱のない安定した社会の中で繁栄した各種の生産や産業過程を題材にしたものや、街道の情景、市街の殷賑や祭礼などを題材にしたものなど、多様な展開がみられるようになった。このことは、絵巻の制作目的や絵巻の受容層といった、絵巻をとりまく社会の変化の反映でもある。

研究代表者は、これまで長期にわたって国内に分散する100点以上の佐渡金銀山絵巻(佐渡金銀山における採鉱、選鉱、製錬から小判製造までの一連の工程や技術を描写したもの)を調査し、それらの年代、分類、絵師、制作目的などについて検討を加えてきた。そして、佐渡金銀山絵巻は佐渡奉行へのビジュアルなレクチャー資料として、1730年代から幕末期までの100年以上にわたって、新技術の導入、作業工程や管理体制の変化を反映させながら、内容の一部を更新して制作され続けたことなどを明らかにした。江戸時代中期以降に制作された佐渡金銀山絵巻を基軸に一貫して研究してきたわけであるが、佐渡金銀山絵巻の「絵巻」史料そのものとしての性格や特質を、日本の絵巻史上全体のなかに位置づけようとした時、江戸時代以降の体系的な絵巻史研究がほとんどなされていないことに気付き、佐渡金銀山絵巻研究の経験をもとに、近世産業絵巻の集積・分析を通じてその一端を解明したいと考えた。

2. 研究の目的

日本の絵巻研究は、平安時代から室町時代までに制作されたやまと絵作品に限定されているといっても過言ではない。このため、江戸時代以降にも継続して展開された多様な絵巻文化のあり方については体系的に整理・研究されていない。本研究では、江戸時代の戦乱のない安定した社会の中で発展した各種の生産や産業過程を画題にした近世産業絵巻史料の集積と分析を通じて、近世社会における絵巻文化の一端を日本絵巻史上に位置づけることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) まず、全国の博物館で刊行された展示図録を中心とした先行研究図書から、今回の分析の対象となる近世産業絵巻関係史料を抽出する。必要に応じて、都道府県教育委員会や歴史民俗系博物館に照会し、全国に散在している近世産業絵巻の所在を確認する。また、実見、実測、写真撮影等の調査を行い、データを収集する。

(2) 次に、これらの絵巻の所蔵者(旧蔵者)、制作時期、作者、発注者、制作目的などを整理し、17世紀頃から幕末期頃までの200年以上にわたって制作された産業絵巻群全体のなかに位置付け、近世産業絵巻群の構造を総合的に検討する。

(3) データの整理にあたっては、絵巻化された産業とされなかった(されにくかった)産業などについても整理し、近世産業の資料化の契機・経緯、その背景についても検討する。

以上を総合的に分析し、近世産業絵巻群を日本絵巻史全体のなかに位置づける。

なお、以上の検討に際しては、調査絵巻所蔵機関の職員を交えた研究会を開催したり、アドバイスを求めるなどして精度を高める。

4. 研究成果

(1) 近世産業絵巻データベース構築の検討

国内に散在する近世産業絵巻データベースの構築を進めた。研究代表者のこれまでの蓄積もあって、鉱業関係は150点を超える数となった。また、捕鯨業に関係するものも多数確認された。しかし、織物業・酒造業などは僅少であり、業種により差が大きい傾向が確認できた。

(2) 絵巻化された産業とされにくかった産業についての検討

データベース構築の作業にあたっては、多数の絵巻が制作された産業(鉱業や捕鯨業など)と、されにくかった産業(織物業・酒造業など)があったことがうかがわれた。

このような背景を探る一環として、近世後期の一枚刷の全国産物番付から、どのような産業が絵巻の画題となりえるのか検討した。番付上位のものが顕著であると予想されたが、捕鯨がそう

であるのに対し、織物業・酒造業などの絵巻化は顕著でなかった。近世の越後国でも織物業が代表的な産業で全国的にも著名であったが、確認されたのは明治 18 年（1885）の絵巻 1 件のみであった。以上から個々の産業や地域ごとに絵巻化された事情を検討する必要性を確認した。

（3）近世産業絵巻の成立背景の検討

農耕、製茶、捕鯨、製紙、織物、鉱業などに関する一連の生産工程などを描いた近世産業絵巻の制作背景や目的は、狩野派など職業絵師の画題として、生業を継承するための記録として、幕府や藩の殖産興業との関わり、など多様であった。制作年代は、狩野派など職業絵師が 17 世紀には画題としていた農耕や製茶の絵巻を除けば、18 世紀以降が大半を占める。

そして、近世産業絵巻の制作は、当然ながら産業の発展が契機とはなかったが、幕府や藩の殖産興業との関わりという視点で見れば、必ずしもその盛期を描いたものではなかった。幕府領鉱山である佐渡金銀山の絵巻を例にみると、金銀産出量が激減していた 1730 年代頃に制作が開始されており、その現状を記録・報告する目的が推察された。肥前国唐津藩における 20 余の産業の様子を唐津藩水野家の家臣・木崎盛標が安永 2 年（1773）～天明 6 年（1786）にかけて描いた「肥前州産物図考」も藩財政の危機と殖産興業への関心が背景にあったと考えられている。また、越後小千谷縮は、近世中期頃に最盛期を迎えたとされるが、その製造工程を描いた「縮布製造之真図」は明治 18 年（1885）の制作であり、近代化の波にさらされるなかで、伝統的な織物業の様子を記録として残そうとする制作意図も推察された。

また、鉱山絵巻では、最盛期を過ぎた近世後期に絵巻の制作や写本化が顕著となる傾向が確認できた。石見銀山絵巻も鉱山としての最盛期を過ぎた 19 世紀以降の制作とみられる。この背景には、地域産業や博物学などに対する関心の高まりとともに、絵巻の制作を担う層や、それを受容する層の拡大といった文化の大衆化、地方文化の発展とも密接に関わると推察された。

（4）近世産業絵巻関連史料の検討

近世産業絵巻の成立事情を探る一環として、近世の産業そのものに対する関心の高まりの時期やそれに付随して制作された書物や絵画などに関する調査も行った。産業絵巻やそれに関連した絵図のなかには、宝暦 4 年（1754）『日本山海名物図会』や寛政 11 年（1799）『日本山海名産図会』などの先行出版物からの影響を受けた構図がみられるものがあることを確認できた。

その一方で、産業絵巻（たとえば佐渡金銀山絵巻）の構図が、屏風や扇面、風景版画など他の形態の史料の構図に影響を与えた事例があることを新出の史料から確認するなど、産業絵巻が与えた文化的影響についても検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 23
2. 論文標題 佐渡金銀山絵巻に描かれた「阿蘭陀水突道具」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新潟県立歴史博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 147 ~ 160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 22
2. 論文標題 「佐州金銀山敷内稼方之図」扇面について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新潟県立歴史博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 125 ~ 134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部浩二	4. 巻 6
2. 論文標題 文献・絵画史料からみる佐渡金銀山の鉱山道具～坑内で使用される道具を中心に～	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 石見銀山遺跡テーマ別調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 35 ~ 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 渡部浩二
2. 発表標題 佐渡金銀山絵巻に描かれた「阿蘭陀水突道具」について
3. 学会等名 資源・素材学会（「資源・素材2021（札幌） - 2021年度資源・素材関係学協会合同秋季大会 - 」）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡部浩二
2. 発表標題 佐渡金銀山のタガネと関連道具
3. 学会等名 資源・素材学会 2024年度春季大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 新潟県立歴史博物館	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新潟県立歴史博物館	5. 総ページ数 144
3. 書名 生業絵巻尽 - ひらけ！江戸の産業図鑑 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------